

Frequently Asked Question



いまださら聞けない



いまだから聞きたい

このコーナーでは読者の皆さんのインターネットに関する疑問や質問にお答えします。「？」と感じたことはどのようなことでも構いませんので、下記のメールアドレスまでご質問ください。なお、ご質問へのメールでの回答はできませんのでご了承ください。
ご質問はこちらまで
im-faq@impress.co.jp

1
2

ADSLの47Mbpsサービスにする意味はある？

フィッシングって何のこと？

今月のポイント

Q

NTT東西やイー・アクセス、アッカ・ネットワークスなどが一斉に、下り最大47Mbps、上り最大5Mbpsのサービスを開始しましたが、このサービスに加入するのに意味があるのでしょうか？(神奈川県 山本さん)

A

ここでいう47Mbpsという速度は回線速度のことで、サービスを利用する際の実効速度とは異なります。つまり、ADSLモデムが47Mbpsで動作できても、実効速度は使用する電話線の条件で決まるのです。

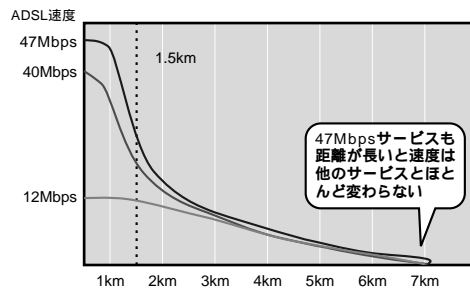
47Mbpsサービスが可能になってきた理由は、モデムを改良して信号を送るための周波数帯域を広げ、より多くの信号を一度に流して速度を上げているからです。しかし、速度アップにも限界があります。もともと3.4kHzという電話の低い周波数にこだわって作った電話線に1MHz以上の高い周波数の信号を通すわけですから、高い周波数になるほど速度向上が難しくなるのです。また、電話局から近距離のユーザーであれば最高速度に近い速度が出ますが、距離が遠くなるほど信号は弱まって届きにくくなります。特に1.5km以上になると落ち込みは激しくなります(図)。47Mbpsサービスでも実効速度が上がるのは、電話局からの距離が1.5km程度ま

でのユーザーです。それ以上離れると、従来のADSLサービスとそれほど実行速度は変わりません。

その意味で、ズバリこのサービスは、「すでにADSLで下り10Mbps以上の速度が出ているユーザーが、これに飽き足りない場合に乗り換えることを想定したサービス」という側面を持っています。ですから、初めてADSLを利用する人にとっては、期待はずれの結果に終わると考えられます。これまでADSLを主力に提供していた

社は、FTTHに対抗して47Mbpsサービスを提供し、あくまでユーザーをADSLに誘導してあげようという作戦なのです。しかし、これまではFTTHに比べてADSLの料金は安めでしたが、最近ではほぼ同等になってきています。現状のADSLの速度に不満を持っていたり、新しく導入を検討したりしている方は、この際、同時に、VDSLサービスやFTTHを検討するほうが無難かもしれません。

(ライター 遍路 和也)



距離と実効速度の関係

ユーザー宅までの距離

47Mの速度が得られるのは電話局に近いユーザーだけ
同じような料金なのでFTTHを検討するのもよい



Q

最近聞かれるようになったフィッシング(phishing)って何ですか？(新潟県 本間さん)

A

フィッシング(Phishing)とは、ひとで言う「ウェブ偽装詐欺」のことです。悪徳業者が「だましメール」でユーザーを偽ページに誘導してクレジットカード番号やパスワードなどを盗み取るという行為です。これらの行為はPCに限らずケータイにおいても同様に見られます。語源にはいろいろ説がありますが、魚を釣るように人を引っ掛ける(だます)ことから、“ fishing ”と同じ発音で“ phishing ”と表記されます。

フィッシングはオンライン登録や取引、ネットショッピングなどが当たり前となった現代に合わせるかのように欧米中心に広がり、被害が急増しているため、Anti-Phishing Working Group [URL01](http://www.antiphishing.org/) という対策団体までできています。これがいよいよ日本にも広がりを見せつつあり、警察庁も注意を呼びかけています。行為そのものは単純ですが、たとえば次のようにユーザーはだまされてしまいます(図)。

(1) ユーザーのもとに、通信利用料が引き落とされなかった旨と、至急の確認を告げるメールが送られる

(2) ユーザーは 実際の企業ページそっくりの 確認用ページに誘導され、そこでIDとパスワードを入力する

(3) 悪徳業者がIDとパスワードを取得し、悪用する

(1)(2)とも実に巧妙な手口なので、見分けるのは非常に困難になっています。

(1)についてはプロバイダーや銀行、クレジットカード会社などの実在する企業のアドレスからのメールで、「support@<企業

「フィッシング(Phishing)=ウェブ偽装詐欺 「騙しメール」「偽ページ」でIDやカード番号を盗まれる

名>」などのそれらしい送信元アドレスと「パスワードの有効期限が迫っています」「パスワードが盗まれました」「利用料が引き落とせません」などの危機感を煽る文章が組み合わされているので、何も知らないユーザーなら「そういうこともありえるかな」とつい誘導されてしまいます。

(2)についても「HTMLメールでリンク先が一目でわからない細工」「ウェブページが実在する企業とそっくり」「ブラウザのバグやJavaScriptでURLを偽装」「URLを隠してあるページに誘導」などの、単純ながら見分けにくい技術を利用してユーザーの目を欺きます。

これら一連の行為が詐欺行為であるかどうかを見分ける方法は、(1)で怪しいと感じたら直接その企業の窓口に電話で問い合わせるか(2)でURLを見て判断することくらいしかないのが実情です。

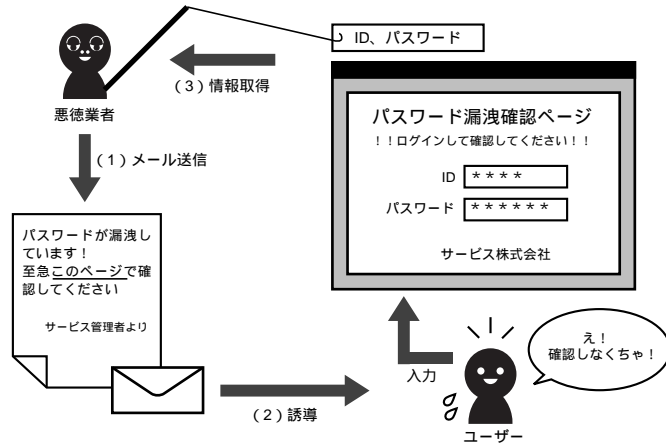
フィッシング対策に必要な心構えは「疑うこと」です。常にすべてのメールやウェブページを疑うのは非現実的ですが、とりわけ自分の金銭、個人情報、アカウント(IDやパスワード)に関する情報については、メールやウェブページに入力する前に企業窓口に問い合わせるなど、細心の注意を払うことが大切です。

さらに運悪く盗まれた場合のために、パスワードを定期的に変更したり、クレジットカードの使用履歴をこまめに保存して引き落とし時に確認したりすることも有効な対策です。もし後からフィッシングされたことが判明したら、すぐにアカウントやカードの管理会社と最寄りの警察など [URL02](http://www.npa.go.jp/cyber/soudan/) に相談することをおすすめします。(ネットマークス 中村 直己)

[URL01](http://www.antiphishing.org/) [http://www. antiphishing.org/](http://www.antiphishing.org/)

[URL02](http://www.npa.go.jp/cyber/soudan/hitech-sodan.htm) <http://www.npa.go.jp/cyber/soudan/hitech-sodan.htm>

フィッシングの手口





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp